

平成19年度福祉社会開発研究センター研究概要

資 料

研究概要 / 活動報告 / 議事録

2008年 3 月

東洋大学福祉社会開発研究センター 資料

2008/03/13

1. プロジェクト概要

1. センターの概要

- (1) 学校法人名 学校法人 東洋大学
- (2) 大学名 東洋大学
- (3) プロジェクト組織名 福祉社会開発研究センター
- (4) プロジェクト所在地
東京都文京区白山5-28-20 (プロジェクト1)
埼玉県朝霞市岡48-1 (プロジェクト2)

(5) 研究プロジェクト名

自治体福祉・保健計画と地域における福祉社会の形成
中山間地域の振興に関する調査研究 中越地震の被災
地・長岡市山古志地区の復興計画の事例に即して -

(6) 研究代表者 古川孝順

(東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科委員長)

(7) 研究プロジェクト参加研究者数

17名 (プロジェクト1) ・ 27名 (プロジェクト2)
計 : 44名

研究プロジェクトに参加する主な研究者

プロジェクト番号	研究者名	所属・職	研究プロジェクトにおける研究課題
プロジェクト 代表	古川 孝順	福祉社会デザイン研究科長 (ライフデザイン学部長)	福祉社会形成論
プロジェクト 1-1	秋元 美世 天野 マキ 金子 光一 小林 良二 須田木綿子 高橋 重宏 高山 直樹 加山 弾 川原 恵子	福祉社会デザイン研究科(社会学部)教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部)教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部)教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部)教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授 社会学部講師 社会学部講師	自治体行政計画論 高齢者福祉論 社会福祉 社会福祉組織論 プロジェクト1-1の統括 非営利組織論 児童福祉論 権利擁護論 地域福祉論 貧困論
プロジェクト 1-2	大坪 省三 紀 葉子 西澤 晃彦 松本 誠一 西野 理子 村尾祐美子	福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授 福祉社会デザイン研究科(社会学部) 准教授 社会学部講師	都市社会学、交通社会学 プロジェクト1-2の統括 地域社会システム論 都市社会学、階級 階層構造論 社会人類学 家族社会学、ライフコース論 労働社会学、ジェンダー論、 社会階層論
プロジェクト 1-3	森田 明美	福祉社会デザイン研究科(社会学部) 教授	児童福祉政策論 プロジェクト1-3の統括

プロジェクト番号	研究者名	所属・職	研究プロジェクトにおける研究課題
プロジェクト 2	内田 雄造	東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科・教授	住生活、地域計画、福祉システム プロジェクト2の統括
	渡辺 裕美	東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科・教授	高齢者介護支援方法論
	高野 龍昭	東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科・講師	ソーシャルワークとケアマネジメント
	神吉 優美	東洋大学ライフデザイン学部・講師	在宅介護と施設介護
	森田 明美	東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科・教授	次世代育成支援計画
	角藤智津子	東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科・教授	地域伝承とわらべ歌
	中原 美恵	東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科・教授	母親支援
	林 浩康	東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科・助教授	精神保健福祉
	松尾 順一	東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科・教授	スポーツと健康管理
	神野 宏司	東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科・助教授	健康科学
	岩本紗由美	東洋大学ライフデザイン学部・講師	リハビリテーション
	齊藤 恭平	東洋大学ライフデザイン学部・教授	ヘルスプロモーション
	水村 容子	東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科・助教授	高齢者・障害者の住まい方
	上杉 啓	東洋大学工学部・名誉教授	住宅構法
	秋山 哲一	東洋大学工学部・教授	住宅建設システム
浅井 賢治	東洋大学工学部・講師	住宅デザイン	
古賀 紀江	前橋工科大学	高齢者の住宅計画	
プロジェクト 2	小林 健一	国立保健医療科学院	病院の施設計画
	青木 辰司	東洋大学社会学部・教授	グリーンツーリズム
	嵩 和雄	(財)学びやの里・研究員	グリーンツーリズム
	明峯 哲夫	農業生物学研究室・主宰	都市の農民による農園づくり 中山間地域の営農
	小瀬 博之	東洋大学工学部・助教授	景観計画
	尾崎 晴男	東洋大学工学部・教授	交通計画
	菊地 章太	東洋大学ライフデザイン学部・教授	地域文化論
	高橋 直美	東洋大学ライフデザイン学部・助教授	地域の伝承文学
	井上 治代	東洋大学ライフデザイン学部・助教授	宗教社会学(老いと死の社会学)
	古川 孝順	東洋大学ライフデザイン学部・教授	地域福祉システム
	RA	後藤 広史	東洋大学大学院
RA	相馬 大祐	東洋大学大学院	障害者福祉論

2. 研究概要

本センターの研究は大きく分けて2つのプロジェクトから構成されている。

(1) プロジェクト1：自治体福祉・保健計画と地域における福祉社会の形成

プロジェクト1はさらに2つに分かれている。

- 1-1 福祉・保健計画を核とする地域福祉社会の展望
- 1-2 地域社会の変貌と福祉社会の形成

【1-1の研究内容】

地方自治体においては、近年さまざまな福祉・保健計画が立案され、実施されるようになったが、これらの諸計画が地域における福祉社会の形成にどのような影響を与えているかについて検証する。すなわち、これらの計画がどの程度自治体のイニシアティブに基づいて立案、実施、評価されているか、また、地域住民からはどのような反応が見られるかに着目する。その際、

多様な援助・サービス提供主体にどのような位置づけが与えられ、それらをどのような仕組みで調整しようとしているかについて検討する。調査は、大都市自治体と地方都市とを比較する形で実施する。

【1-2の研究内容】

現代の日本社会においては、孤立する高齢者、被虐待児童、障害者、ニート、オーバーステイ外国人、ホームレス、などの孤立したマイノリティ・グループの発生が顕著である。このようなマイノリティ・グループが発生する社会的メカニズムを明確にし、どのように福祉社会が形成されるかを考察する。

【達成目標】

3年目までに、従来の研究成果のレビューを行い基本的な論点を抽出するとともに、調査対象となる東京圏の基礎自治体5箇所程度、地方の自治体5箇所を訪問して、各種計画の担当者へのインタビューや関係者との討論を行う。また、当該自治体内で福祉・保健サービスの関連団体へのヒアリング、アンケート調査を行い、基礎的な資料を作成する。場合によって、海外の自治体の対応を調査する。

5年目までに、得られた調査・研究結果を整理分析し、結果を関連自治体にフィードバックするとともに、福祉社会形成という観点から相互討論を行い、成果を公表する。

【期待される効果】

社会への貢献：福祉・保健の計画化の時代における自治体の諸計画につき、福祉社会形成という包括的視点からのさまざまな論点を提示することができる。

学術上の意義：福祉・保健分野における総合的な計画研究はまだ緒についたばかりであり、計画の策定、実施、調整、評価などに関するさまざまな手法の開発が期待できる。

数人のRA、PDを参加させ、さまざまな研究手法を学ばせることができる。

【事業計画】

平成19年度

- 先行研究・基礎資料の整理と論点の抽出
- 首都圏5箇所程度の自治体、及び、若干の地方都市における予備的なヒアリングの実施

- 本テーマに関する研究会の開催
- ゲストスピーカーを招待してのシンポジウムの開催
- 1年目のまとめと報告書の作成
- 研究評価委員会への評価の依頼

平成20年度

- 先行研究・基礎資料の整理と論点の抽出(続き)
- 首都圏3箇所程度の自治体および若干の地方都市におけるヒアリングの継続
- 本テーマに関する研究会の開催
- 当該自治体における福祉・保健関連団体への予備的調査
- ゲストスピーカーを招待してシンポジウムの開催
- 2年目のまとめと報告書の作成
- 研究評価委員会への評価の依頼

平成21年度

- 先行研究・基礎資料の整理と論点の抽出
- 本テーマに関する研究会の開催
- 首都圏3箇所程度の自治体、および、若干の地方都市におけるヒアリングの継続
- 当該自治体における福祉・保健関連団体への本格調査
- 住民グループとのシンポジウムの実施
- 3年目のまとめと報告書の作成
- 研究評価委員会への評価の依頼

平成22年度

- 収集した資料の分析と論点のまとめ
- 上記自治体に対する補充調査
- 本テーマに関する研究会の開催
- 首都圏5箇所程度の自治体におけるヒアリングと資料の整理
- まとめのためのシンポジウムの開催
- 4年目のまとめと報告書の作成
- 研究評価委員会への評価の依頼

平成23年度

- 資料の整理と分析、執筆
- 上記自治体に対する補充調査
- 総合的なシンポジウムの開催
- 最終報告の作成
- 研究評価委員会への評価の依頼

【プロジェクト1の今後の活動】

- ・プロジェクト1-1は3月末に韓国での調査・セミナー

を予定している。これで培った関係性を通して、「自治体福祉・保健計画と地域における福祉社会の形成」という研究課題について国際比較研究をしながら深めていく。

- ・上述の研究・調査を研究まとめた報告書を作成中（プロジェクト2と共同）
- ・次年度は、研究センター全体のホームページを立ち上げ、それを媒体としてこれらの研究成果を随時公表していく。

（2）プロジェクト2

【テーマ】

中山間地域の振興に関する調査研究 - 中越地震の被災地・長岡市山古志地区の復興計画の事例に即して -

【プロジェクト2の研究内容】

中山間地域の振興方策、山古志地区の復興計画はさまざま分野にわたるが、当面次のテーマを考えている。

高齢者・障害者の生活自立支援

高齢者・障害者の健康自立支援

次世代育成支援

山古志地区における住生活・住宅づくりへの支援

山古志地区の景観計画

山古志地区の文化の保全と継承

地域への自立支援

* 地域丸ごと博物館の可能性

* グリーンツーリズム

* 中山間地域の農業計画

住民と行政のパートナーシップに基づく福祉社会システム計画

計画志向の強い研究であり、かつ研究主体にとっては現実の復興計画に関わる中での参与型研究である。

研究内容は分野毎に次のステージで実施する。

山古志地区における実態調査と主要課題の抽出

主要課題に関する詳細調査

主要課題への取組みの先行事例の文献調査と先進事例の現地調査

他の分野との調整を経て、山古志復興計画の提案

中山間地域振興への提言

【達成目標】

1年目：課題の抽出、2年目：主要課題に関する詳細

調査、3年目：先行事例の文献調査と先進事例の現地調査、4年目：各分野毎の調査・研究を踏まえた山古志地区の復興計画の提案、5年目：各分野毎の調査・研究と山古志の復興計画の提案を踏まえた中山間地域振興に対する提言、である。

定量的な目標は立てられないが、研究分野毎に各年度毎の研究計画達成に関する自己評価を提出してもらう。また各分野の研究成果は(財)山の暮らし再生機構へ逐次フィードバックされる予定である。(財)山の暮らし再生機構には毎年外部からのレビューを依頼する。学内的には研究代表者、各分野の代表者と研究科委員長、専攻主任（3名）からなる研究推進委員会を設け、この委員会で自己評価をもとにレビューを実施する。

【期待される効果】

山古志復興に関わる行政その他の機関及び研究者は、「山古志の復興は日本の中山間地域振興のモデルケース」と位置づけている。従って、本研究が山古志地域の復興計画に大きく寄与することができれば、社会への貢献、学術上の意義は大きいものと考えている。また、本研究が院生や学部学生に教育研究の場を提供すること、新設のヒューマンデザイン専攻を統合する主要な研究になると考えている。

【年度別具体的研究計画】

平成19年度

研究グループ全体で山古志地区実態調査を実施し、主要課題を抽出する

多くの住民がなぜ山古志に住みたいかを明らかにする
山古志の生活において困っている点をあきらかにする
行政施策の実態を調査する

シンポジウムを開催する

年次研究報告書を出版する

学内評価委員会開催

平成20年度

各分野毎に主要課題について詳しい調査を行う

高齢者の生活自立、健康保持の実態調査

次世代育成の実態調査

小規模住宅の住まい方、住宅改善の実態調査

景観調査 - 景観マップの作成

地域文化（宗教を含む）の実態調査

地域産業（農林業、養鯉業を含む）と就業者の実態調査

シンポジウムを開催する

年次研究報告書を出版する
学内評価委員会開催

平成21年度

主要課題への対応の先行事例の文献調査と先進事例
の現地調査を行う
生活自立支援、健康自立支援の事例調査
次世代育成の事例調査
住宅改善計画調査
景観計画事例調査
地域文化と宗教(特に死生観)に関する調査研究
「地域まるごと博物館」グリーンツーリズム事例調査
住民と行政とのパートナーシップに基づく福祉社会
システムの事例調査
シンポジウムを開催する
年次研究報告書を出版する
学内評価委員会開催

平成22年度

各分野毎の復興計画を持ち寄り、分野間の調節を行う
分野毎の復興計画を策定する
と行政とのパートナーシップを重視し、福祉社
会システムの提案を行う
(財)山の暮らし再生機構への計画提言を行う
山古志地区の復興計画の提案を行う
2回にわたるシンポジウムを開催する
年次研究報告書を出版する
学内評価委員会開催

平成23年度

中山間地域の振興計画を整理し、地域社会、学界を
対象とした提言を作成
最終報告書を作成・出版し、関係機関や学会に幅広
く配布する
最終シンポジウムの開催
学内評価委員会開催

プロジェクト1 活動報告

I. 合同研究会

第1回プロジェクト 合同研究会

開催日時: 2007年10月11日(木) 14時30分から16時

開催場所: 福祉社会開発研究センター(20813室)

出席者: 秋元美世、アルタンヴォリク、天野マキ、
大坪省三、小野 学、大村美保、門美由紀、
金子光一、木口恵美子、紀 葉子、熊谷節子、
小林良二、後藤広史、清水茂徳、永野 咲、
古川孝順、許 賢淑、松本誠一、相馬大祐

開催内容: プロジェクト の研究員の合同研究会を企
画した。第1回目は、センター長古川孝順から「生活支
援の社会福祉学」について講演が行われた。

第2回プロジェクト 合同研究会

開催日時: 2008年1月17日(木) 13時から14時30分

開催場所: 5301教室

出席者: 秋元美世、天野マキ、小野 学、大村美保、
加山 弾、紀 葉子、小林良二、後藤広史、
松本誠一、相馬大祐

開催内容: プロジェクト 合同研究会の2回目として、
紀葉子先生から「ブラジルと社会学 - 日系人コミュニ
ティにおける福祉開発」について講演頂いた。

II. セミナー・シンポジウム開催報告

第五回大邱大学校合同セミナー

開催日時: 2007年7月16日

開催場所: 東洋大学白山校舎5201教室

出席者: 45名(大邱大学校関係者20名、東洋大学関係
者25名)

開催内容: 協定校である韓国の大邱大学校との合同シ
ンポジウムの運営を行った。

【基調講演】

「社会福祉学の性格と枠組み」

古川孝順(東洋大学ライフデザイン学部)

【シンポジウム】

「社会福祉領域における新たな視点」

コーディネーター

小林良二(東洋大学社会学部)

報告者

徐 惠錫(イエス大学社会福祉学科)

後藤広史（東洋大学大学院）

コメント

朴 泰英（大邱大学校）

川原恵子（東洋大学社会学部）

第一回『地域における福祉支援の現状と課題』シンポジウムの開催

日時：2007年2月19日（火）13：30～16：30

会場：東洋大学白山校舎二号館スカイホール

コーディネーター

小林良二（東洋大学社会学部）

シンポジスト

中村美安子（厚生労働省社会・援護局地域福祉専門官）

木谷哲三（世田谷区介護予防担当部地域福祉支援課長）

加山 弾（東洋大学社会学部）

総参加者数58名（学内23名、学外35名）

【感想】

- ・良い企画だと思う。包括支援センターが、地域にでき、地域のキーステーションの担い手が変わりつつある。福祉事務所も同様。今後の更なる検討が必要。来た甲斐があった。
- ・いろいろな論点から、地域福祉を考える話で参考になった。人間関係が希薄になる中で、どうやってつなげていくのかというのが、ポイントだと感じた。食事は必ず必要なものなので、コンビニや総菜店、スーパーなどの協力が得られると強いのではないかと思った。
- ・日常業務に追われ、基本的な部分を考える時間が少なくなっている。今回のシンポジウムで立ち返る機会を得ることができた。
- ・地域福祉の現状、課題の複雑化を強く感じた。テーマを絞ったシンポジウムをしていただければと思う。例えば、孤立死など……。

【今後期待するシンポジウムのテーマ】

- ・地域福祉計画の策定について
- ・在宅生活を支える医療介護の在り方
- ・次回以降の社協、民生のテーマにも参加したい

【その他の意見、感想】

- ・私は「保健畑」なので、福祉の話は大変面白かった。
- ・出席者をもう少し絞り込んだシンポジウムを同じテーマで数回開催してその後、拡大シンポジウムというような形式はいかがか。住民の方の発言が長く、それはそれで大切だが、市民シンポジウムではない

ので、もう少し……と思った。深まりにくいテーマ、でも大切なので。

（シンポジウムアンケート結果より抜粋）

プロジェクト1-1活動報告

I. 研究会活動

第1回生活支援研究会

開催日時：2007年6月6日15:30～18:00

開催場所：東洋大学社会学部会議室B

出席者：秋元美世、金子光一、加山 弾、川原恵子、

小林良二

開催内容：調布ゆうあい公社土屋典子氏に「国領地域包括支援センターにおける事業運営と課題」報告していただき、その後、地域包括支援センターの課題について出席者間で討論した。

第2回生活支援研究会

開催日時：2007年7月26日（木）13時から14時30分

開催場所：福祉社会開発研究センター（20813室）

出席者：秋元美世、金子光一、加山 弾、小林良二、

小野 学、大村美保、申 光石、後藤広史、永野 咲、相馬大祐

開催内容：ROBERT HENRY COX, The Consequences of Welfare Reform: How Conceptions of Social Rights are Changing, Journal of Social Policy, 1998「福祉改革の行く末 社会権の概念はどのように変化したのか？」を要約発表し、いくつかの論点が提示され、議論が行われた。

第3回生活支援研究会

開催日時：2007年8月21日（火）14時から15時30分

開催場所：福祉社会開発研究センター（20813室）

出席者：秋元美世、天野マキ、加山 弾、川原恵子、

小林良二、小野 学、大村美保、申 光石、木口恵美子、後藤広史、永野 咲、洪 進基、相馬大祐

開催内容：古川孝順編『生活支援の社会福祉学』の序章古川孝順著「生活支援の社会福祉学」を後藤広史、第1章秋元美世著「社会サービス・社会福祉・生活支援」を小林良二、第3章吉川かおり著「生活課題と生活支援活動」を相馬大祐がそれぞれ要約発表し、生活支援とは何か議論を行なった。

第4回生活支援研究会

開催日時：2007年8月24日15時から16時30分
開催場所：福祉社会開発研究センター（20813室）
出席者：小林良二、後藤広史、永野 咲、相馬大祐
開催内容：生活支援研究会を続けていく中で、サービスと利用者のインターフェイスで活動している専門職の機能と人間像を明らかにするための予備的研究をする必要性が考えられた。そこで、相談支援従事者のインタビューガイド作成のため、さいたま市障害者生活支援センターの大村美保氏にインタビューを行った。

第5回生活支援研究会

開催日時：2007年9月18日（火）15時から16時30分
開催場所：福祉社会開発研究センター（20813室）
出席者：秋元美世、天野マキ、加山 弾、小林良二、小野 学、大村美保、熊谷節子、後藤広史、永野 咲、相馬大祐
開催内容：古川孝順編『生活支援の社会福祉学』の第15章加山弾著「まちづくり政策」を相馬大祐、第18章高山直樹著「社会福祉援助の方法（2） 媒介と調整」を永野咲が要約発表し、議論を行なった。

第6回生活支援研究会

開催日時：2007年9月20日（木）13時から14時30分
開催場所：福祉社会開発研究センター（20813室）
出席者：小林良二、永野 咲、相馬大祐
開催内容：相談支援従事者のインタビューガイド作成のためNPO法人山友会后藤広史氏にインタビューを行った。

第7回生活支援研究会

開催日時：2007年10月4日（木）10時30分から12時
開催場所：福祉社会開発研究センター（20813室）
出席者：秋元美世、天野マキ、小林良二、小野 学、大村美保、申 光石、木口恵美子、後藤広史、永野 咲、相馬大祐
開催内容：古川孝順編『生活支援の社会福祉学』の第16章岩崎晋也著「社会福祉と一般生活支援施策との関係性」を小野学、第17章稲沢公一著「社会福祉援助の方法（1）相談と援助」を大村美保、第18章小松理佐子著「社会福祉援助の方法（3）運営と計画」を木口恵美子がそれぞれ要約発表し、議論した。

第1回ソーシャルポリシー研究会

開催日時：2007年10月11日（木）10時30分から13時
開催場所：福祉社会開発研究センター（20813室）
出席者：秋元美世、天野マキ、小林良二、小野 学、大村美保、申 光石、木口恵美子、後藤広史、永野 咲、相馬大祐
開催内容：T・H・マーシャル著、岡田藤太郎訳『福祉国家・福祉社会の基礎理論 「福祉に対する権利」他論集』の第五章「福祉に対する権利」を今後、輪読していくこととなる。その際、原本と照らし合わせながら、福祉社会とは何か、社会福祉に対する権利とは何かを探ることを目的とする。今回は、P148～151の9行目までを和訳本で読み、書かれている内容を確認した。

第2回ソーシャルポリシー研究会

開催日時：2007年10月25日（木）13時から14時30分
開催場所：福祉社会開発研究センター（20813室）
出席者：秋元美世、天野マキ、小林良二、小野 学、大村美保、申 光石、木口恵美子、後藤広史、永野 咲、相馬大祐
開催内容：T・H・マーシャル著『福祉国家・福祉社会の基礎理論 「福祉に対する権利」他論集』の第五章「福祉に対する権利」のP151の10行目からP156の6行目までを和訳本で読んだ後、書かれている内容を確認した。

第3回ソーシャルポリシー研究会

開催日時：2007年11月8日（木）13時から14時30分
開催場所：福祉社会開発研究センター（20813室）
出席者：秋元美世、天野マキ、小林良二、小野 学、大村美保、申 光石、木口恵美子、後藤広史、永野 咲、相馬大祐
開催内容：T・H・マーシャル著『福祉国家・福祉社会の基礎理論 「福祉に対する権利」他論集』の第五章「福祉に対する権利」のP156の7行目からP161の10行目までを和訳本で読み、原本と照らし合わせて、内容を確認した。

第4回ソーシャルポリシー研究会

開催日時：2007年11月22日（木）13時から14時30分
開催場所：福祉社会開発研究センター（20813室）
出席者：秋元美世、天野マキ、小林良二、小野 学、

大村美保、申 光石、木口恵美子、後藤広史、
永野 咲、相馬大祐

開催内容：T・H・マーシャル著『福祉国家・福祉社会の基礎理論 「福祉に対する権利」他論集』の第五章「福祉に対する権利」のP161の11行目からP171の13行目までを和訳本を読み、原本と照らしあわせて内容を確認した。

第5回ソーシャルポリシー研究会

開催日時：2007年12月6日（木）13時から14時30分
開催場所：福祉社会開発研究センター（20813室）
出席者：秋元美世、天野マキ、小林良二、小野 学、
大村美保、申 光石、木口恵美子、後藤広史、
永野 咲、相馬大祐
開催内容：T・H・マーシャル著『福祉国家・福祉社会の基礎理論 「福祉に対する権利」他論集』の第五章「福祉に対する権利」のP171からP181までを和訳本で読み、原本の内容と照らし合わせて内容を確認した。

II. 調査活動

第1回 調布市地域包括支援センター聞き取り調査

実施期日：2007年11月29日

【訪問先】

1. 調布市地域包括支援センター「ゆうあい」
（調布市国領3 - 8 - 1）

インタビュアー：

小林良二 / 後藤広史 / 相馬大祐 / 申 光石

インタビュイー：

センター長 / 主任介護支援専門員 廣澤氏
社会福祉士 川島氏 / 社会福祉士 久保木氏
社会福祉士 村松氏 / 社会福祉士 柴崎氏
保健師 川崎氏

2. 地域包括支援センター「ときわぎ国領」
（調布市国領8 - 2 - 65）

インタビュアー：

小林良二 / 後藤広史 / 相馬大祐 / 申 光石

インタビュイー：

センター長 市川氏 / 社会福祉士 中野氏

第2回 調布市地域包括支援センター聞き取り調査

実施期日：2007年12月6日

【訪問先】

1. 地域包括支援センター「せいじゅ」
（調布市上石原3-54-2）

インタビュアー：

小林良二 / 後藤広史 / 申 光石

インタビュイー：

センター長 / 介護支援専門員 山口氏
社会福祉士 / 介護支援専門員 福田氏

第3回 調布市地域包括支援センター聞き取り調査

実施期日：2007年12月19日

【訪問先】

1. 調布市地域包括支援センター「ちょうふの里」
（調布市西町290-5）

インタビュアー：

小林良二 / 後藤広史 / 申 光石

インタビュイー：

主任ケアマネジャー 斉藤氏 / 社会福祉士 石橋氏
介護支援専門員 竹下氏

第4回 調布市地域包括支援センター聞き取り調査

実施期日：2007年12月20日

【訪問先】

1. 調布市地域包括支援センター「つつじヶ丘」
（調布市東つつじヶ丘1 - 5 - 2）

インタビュアー：

小林良二 / 相馬大祐 / 後藤広史 / 申 光石

インタビュイー：

主任ケアマネジャー 家田氏 / 社会福祉士 折原氏

第5回 調布市地域包括支援センター聞き取り調査

実施期日：2007年12月21日

【訪問先】

1. 地域包括支援センター「仙川」
（調布市仙川町1丁目12番地9 S Sビル1階）

インタビュアー：

小林良二 / 相馬大祐 / 後藤広史 / 申 光石

インタビュイー：

社会福祉士 山田氏

第6回 調布市地域包括支援センター聞き取り調査

実施期日：2008年1月11日

【訪問先】

1. 地域包括支援センター「ちょうふ花園」
（調布市下石原3丁目44番地1）

インタビュアー：

小林良二 / 後藤広史 / 申 光石

インタビュー :

経験のある看護師 佐藤 氏

2. 域包括支援センター「八雲苑」

(調布市八雲台1丁目22番地1八雲台クリーンハイム1階)

インタビュアー :

小林良二 / 後藤広史 / 申 光石

インタビュー :

社会福祉士 阿部 氏

3. 地域包括支援センター「はなみずき」

(調布市深大寺北町4丁目17番地7)

インタビュアー :

小林良二 / 後藤広史 / 申 光石

インタビュー :

主任ケアマネジャー 赤羽 氏

経験のある看護師 田中 氏

プロジェクト1-2活動報告

第1回大坪班、松本班合同帯広市および隣接町村調査

実施期日 : 2007年11月1日から11月4日

【訪問先】

帯広市役所企画課

帯広市保健福祉センター(子ども家庭総合支援センター)

北海道帯広保健所

【研究員】

大坪省三、松本誠一、市川藤雄、田中良幸

第2回大坪班帯広市および隣接町村調査

実施期日 : 2008年1月25日から1月28日

【訪問先】

帯広市

【研究員】

大坪省三

第3回大坪班帯広市および隣接町村調査

実施期日 : 2008年2月15日から2月18日

【訪問先】

帯広市

【研究員】

大坪省三、谷口奈美、笹川浩利

第4回大坪班帯広市および隣接町村調査

実施期日 : 2008年2月26日から3月6日

【訪問先】

帯広市

【研究員】

大坪省三、村尾祐美子(2/26~2/28)、佐川和雄(3/1~3/3)、栗原陽子(3/4~3/6)

(帯広調査の成果は別紙、報告書P63からP93までを参照のこと)

台湾調査

実施期日 : 2008年3月6日から3月9日

【訪問先】

台北市

淡江大学

【研究員】

西野理子

第2回松本班帯広市および近隣町村調査

実施期日 : 2008年3月14日から3月17日

【研究員】

松本誠一、市川藤雄、田中良幸

プロジェクト1-3 活動報告

第1回児童支援システム研究会

開催日時 : 2007年12月22日

開催場所 : 白山校舎社会学部会議室A

出席者 : 上田美香、鈴木雅子、清水冬樹、宮武正明、

森田明美、若林ちひろ

開催内容 : 松山東雲女子大学人文学科心理こども学科宮武正明先生を招聘し研究会を開催した。

中部地域での自治体子ども施策に関するヒアリング調査

実施期日 : 2007年12月24日

【訪問先】

東海ジェンダー研究所

【研究員】

森田明美、宮武正明

地域産業研究グループ活動報告

・研究メンバー

統括

内田 雄造 東洋大学ライフデザイン学部教授

研究員

青木 辰司 東洋大学社会学部教授

阿部英之助 東洋大学非常勤講師

外部研究員

明峰 哲夫 農業生物学研究室主宰

嵩 和雄 財団法人「学びやの里」主任研究員

齊藤 隆 長岡市山古志支所産業振興課長

渡辺 斉 財団法人山の暮らし再生機構専務理事

佐々木康彦 財団法人山の暮らし再生機構研究員

古山周太郎 日本学術振興会特別研究員

木村 直紀 福祉のまちづくりコンサルタント

研究補助員

山賀 陽子 東京工業大学大学院生

青柳 聡 東洋大学大学院生

・研究活動

1. 研究会

第1回地域産業グループ研究会

日時 6月21日(木)14時~16時

場所 東洋大学白山キャンパス2号館3階
現代社会総合研究所

参加者

学内研究員 内田雄造、青木辰司

学外研究員 明峰哲夫

研究補助員 青柳 聡

第2回地域産業グループ研究会

日時 7月3日(火)9時~12時

場所 東洋大学白山キャンパス2号館3階
現代社会総合研究所

参加者

学内研究員 内田雄造、青木辰司、阿部英之助

学外研究員 明峰哲夫、嵩 和雄、齊藤 隆、
渡辺 斉、佐々木康彦、古山周太郎、
木村直紀

研究補助員 山賀陽子、青柳 聡

第3回地域産業グループ研究会

日時 7月23日(月)16時~17時

場所 東洋大学白山キャンパス2号館3階
現代社会総合研究所

参加者

学内研究員 内田雄造、青木辰司、阿部英之助

学外研究員 明峰哲夫、嵩 和雄、齊藤 隆、
渡辺 斉、佐々木康彦、古山周太郎

研究補助員 山賀陽子

臨時参加者 秋山 寛(タム地域環境研究所)

第4回地域産業グループ研究会

日時 8月28日(火)10時~12時、13時~15時30分

場所 長岡市山の暮らし再生機構(LIMO)事務所内
参加者

学内研究員 内田雄造、青木辰司、阿部英之助

学外研究員 明峰哲夫、嵩 和雄、渡辺 斉、
佐々木康彦、古山周太郎、木村直紀

研究補助員 山賀陽子、青柳 聡

臨時参加者 鈴木重彦(みどり復興アクションプロ
グラム実行委員長)

青木 勝(長岡市山古志支所長)

第5回地域産業グループ研究会

日時 9月21日(金)13時~16時

場所 東洋大学朝霞キャンパス
大学院・研究棟3階共同研究室

参加者

学内研究員 内田雄造

学外研究員 明峰哲夫、嵩 和雄、齊藤 隆、
古山周太郎、木村直紀

研究補助員 山賀陽子、青柳 聡

臨時参加者 五十嵐豊(山の暮らし再生機構研究員)

第6回地域産業グループ研究会

日時 10月31日(水)14時~17時

場所 東洋大学朝霞キャンパス
大学院・研究棟2階大学院演習室

参加者

学内研究員 内田雄造

学外研究員 明峰哲夫、渡辺 斉、佐々木康彦、
古山周太郎

研究補助員 青柳 聡

第7回地域産業グループ研究会

日時 11月20日(火)13時~16時

場所 東洋大学朝霞キャンパス
大学院・研究棟2階大学院演習室

参加者

学内研究員 内田雄造

学外研究員 明峰哲夫、嵩 和雄、渡辺 斉、
佐々木康彦

研究補助員 青柳 聡

第8回地域産業グループ研究会

日時 12月20日(木)13時30分~16時30分

場所 東洋大学朝霞キャンパス
大学院・研究棟2階大学院演習室

参加者

学内研究員 内田雄造

学外研究員 明峰哲夫、嵩 和雄、佐々木康彦

研究補助員 青柳 聡
第9回地域産業グループ研究会
日 時 1月17日(木)14時~17時
場 所 東洋大学朝霞キャンパス
大学院・研究棟2階大学院演習室
参加者
学内研究員 内田雄造
学外研究員 明峰哲夫、嵩 和雄、齊藤 隆、
佐々木康彦、古山周太郎
研究補助員 青柳 聡
臨時参加者 関司直也
(法政大学現代福祉学部専任講師)

第10回地域産業グループ研究会
日 時 2月7日(木)14時~17時
場 所 東洋大学朝霞キャンパス
大学院・研究棟2階大学院演習室
参加者
学内研究員 内田雄造
学外研究員 明峰哲夫、嵩 和雄、渡辺 斉、
齊藤 隆、佐々木康彦、古山周太郎
研究補助員 青柳 聡
臨時参加者 菅原康晃(パイディア主任研究員)

第11回地域産業グループ研究会
日 時 3月17日(月)13時~17時
場 所 東洋大学朝霞キャンパス
大学院・研究棟2階大学院演習室
参加者
学内研究員 内田雄造
学外研究員 明峰哲夫、嵩 和雄、渡辺 斉、
齊藤 隆、佐々木康彦、古山周太郎
研究補助員 青柳 聡

2. 関連調査

地域産業グループ現地調査
日 時 8月27日~28日
場 所 新潟県長岡市山古志地区
参加者
学内研究員 内田雄造、青木 辰司、阿部英之助
学外研究員 明峰哲夫、嵩 和雄、齊藤 隆、
渡辺 斉、佐々木康彦、古山周太郎、
木村直紀
研究補助員 山賀陽子、青柳 聡

新潟県内水面水産試験場ヒアリング調査
日 時 11月21日(水)14時~16時
場 所 新潟県内水面水産試験場
参加者
学内研究員 内田雄造

学外研究員 嵩 和雄、佐々木康彦
研究補助員 青柳 聡
対象者
網田健次郎 新潟県内水面水産試験場長
山田 和雄 新潟県内水面水産試験場養殖課長

山古志の産業に関するヒアリング調査
日 時 12月23日(日)~25日(火)
場 所 新潟県長岡市山古志支所
参加者
学内研究員 内田雄造
学外研究員 明峰哲夫、嵩 和雄、佐々木康彦、
古山周太郎
研究補助員 青柳 聡
対象者
齊藤 勝(養鯉業)
坂牧雅良(養鯉業)
田中 仁(農業)
青木幸七(農業)
関 克史(畜産業)
長島久子(農産物加工)
草間幸満(農産物加工)

九州地域の先進事例視察
日 時 2月28日(木)~3月2日(日)
場 所 熊本県水俣市、阿蘇市、小国町・福岡県黒
木町・大分県宇佐市
参加者
学内研究員 内田雄造
学外研究員 明峰哲夫、嵩 和雄、齊藤 隆、
渡辺 斉
研究補助員 青柳 聡
臨時参加者

佐藤正徒(長岡市山古志支所産業課)
五十嵐豊(山の暮らし再生機構研究員)
井上 洋(山古志地域支援センター)
田中 仁(長岡市山古志地区)
坂牧久伸(長岡市山古志地区)

健康自立支援班活動報告書

平成19年度の活動内容

- 1) 本研究班の5年間の研究計画の立案
- 2) 山古志地区保健、医療、福祉関係専門職へのヒアリング調査
- 3) 山古志比較地区（函館市楸法華地区）における保健、医療、福祉関係専門職へのヒアリング調査
- 4) 研究報告書の作成

研究班のメンバー

松尾順一、斉藤恭平、神野宏司、岩本紗由美（ライフデザイン学部健康スポーツ学科）

活動の実際

- 1) 山古志支所保健福祉専門職への研究計画の提示と研究計画実施への協力依頼

日 時：平成19年7月18日13時～14時30分

場 所：山古志会館会議室

参加者：

山古志支所；保健福祉課課長、保健師

東洋大学；松尾、斉藤、神野、岩本

- 2) 長岡市社会福祉協議会山古志支所専門職へのヒアリング調査

日 時：平成19年11月14日13時～14時30分

場 所：長岡市デーサービスセンター「なごみ苑」

対象者：「なごみ苑」支所長、生活相談員（職員）

調査者：斉藤、岩本

- ヒアリングの内容：山古志地区高齢者の健康状態およびその特性

- 3) 山古志支所診療所所長へのヒアリング調査

日 時：平成19年11月14日16時～17時

場 所：山古志支所診療所

対象者：診療所所長

調査者：斉藤、岩本

- ヒアリングの内容：山古志地区高齢者の健康状態およびその特性

- 4) 山古志支所保健福祉専門職へのヒアリング調査

日 時：平成20年1月16日13時～14時30分

場 所：山古志支所第2会議室

対象者：保健福祉課課長、保健師

調査者：神野、松尾

- ヒアリングの内容：山古志地区高齢者の健康状態およびその特性

- 5) 山古志比較地区（函館市楸法華地区）における保健、医療、福祉関係専門職へのヒアリング調査

日 時：平成20年1月22日

場 所：楸法華クリニック、楸法華高齢者福祉総合センター、函館市中央福祉事務所

対象者：楸法華クリニック理事長、楸法華高齢者福祉総合センター職員、保健師

調査者：斉藤、神野、岩本

- ヒアリングの内容：楸法華地区高齢者の健康状態およびその特性

- 6) 山古志比較地区（函館市楸法華地区）における保健関係専門職への協力依頼等

日 時：平成20年1月23日

場 所：函館保健所、

対象者：函館保健所所長

調査者：斉藤、神野

- 7) 山古志比較地区（函館市楸法華地区）における現地調査

日 時：平成20年1月24日～26日

場 所：楸法華漁港周辺と楸法華地区保健・福祉・医療関連施設

調査者：斉藤

研究報告書

上記のように、両地区における保健、医療、福祉関係専門職へのヒアリング調査を実施し、その分析結果を「質的研究方法による山古志地区高齢者の健康問題に関する分析～保健医療福祉関係専門職に対するインタビューの分析を通じて～」と題し、研究報告書に掲載した。

住生活・住宅研究チーム活動報告

研究メンバー：

上杉、内田（雄）、二瓶（新潟市）、古賀（前橋工科大学）、小林（国立保健医療科学院）、神吉、水村

研究協力者：

青柳、田中（東洋大学）、鈴木（前橋工科大学）

1. 研究会

平成19年5月21日、6月18日、7月30日、10月22日、の4回にわたり、東洋大学朝霞校舎人間環境デザイン学科共同研究室において実施された。主として、山古志住民への調査の内容および調査方法の、調査結果のまとめ方などに関して検討を行った。

2. 関連調査

山古志住民への調査に必要な情報を収集するため、以下の調査を実施した。

7月11日：

山古志支所保健福祉部への調査対象者の選定依頼および山古志地区社会福祉協議会へ、同地域の高齢者の生活状況、福祉サービスの利用状況に関するヒアリング調査を実施した。

8月6日：

山古志支所保健福祉部へ調査の具体的な実施方法に関する打ち合わせを実施した。

3. 山古志住民への調査

今年度は、6名の山古志住民へのヒアリング調査および陽光台仮設住宅における集団インタビュー調査によって構成される。

山古志住民へのヒアリング調査：9月4日、13日、16日において、6名の方へ実施。ご自宅へお伺いし、被災時の被害状況、住宅の再建のプロセス、現在の生活状況などに関するヒアリング調査を実施した。

陽光台仮設住宅における集団インタビュー調査：9月～10月に実施。陽光台仮設住宅の集会室へお伺いし、住民の皆さん（高齢の女性）に、山古志の写真をご覧いただき、住居観・住生活に関する意識・考えを伺う調査を実施した。

4. 次年度の活動計画

引き続き、山古志住民へのヒアリングを実施（ヒアリング件数を増やすと同時に、今年度実施した方への追跡調査の実施）

住居観・住生活に関する意識調査を、山古志支所職員や山古志小・中学校の学童など、様々な年代の住居意識を把握する調査の実施

地域文化研究班活動報告

井上治代・高橋直美・菊地章太

1. 研究の目的

本研究班は、山古志地域に伝承された文化と人々の生活のありようを社会学・文学・宗教学の立場から多面的に理解していくことをめざしている。具体的な取り組みとしては、まず被災者の方々が負った心の傷とそこからの回復がどのようになされていったかをできるだけ多くの方からお聞きし、災害を通じて再認識された山古志住民としてのアイデンティティとは何かを探してみたい。そのうえで、中山間地という自然条件および中越という歴史的環境のなかではくまれてきた文化の特性を理解し、人々の心を山につなぎとめているものは何かを明らかにすることを目的とする。山古志地域の伝統的な文化や生活を把握することから、さらに進んで地域の活性化につながる文化活動の可能性を模索していくことが、本研究班のめざす課題である。

2. 研究経過

上記のような共通の目標のもとに、本年度はまず研究班のメンバーが個々に関心をいただくテーマを決めて、調査研究に取り組むことにした。

井上は社会学の立場から、被災地の人々が経験した心の危機と、それを乗り越えていく過程での住民意識の確立について考察している。大地震によって建物が倒壊したとき、住民の方々が他を置いて持ち出そうとしたものは何か。先祖の位牌や先祖の墓への思いはどのようなものであったかを聞き取り調査によって把握する。実際に被災後の山古志では、県道や橋が復旧されるよりも早く、水没した墓地が再整備されている。被災による住民の心的なダメージを分析し、その受容と回復がどのようになされていったかを明らかにしていく試みである。災害を契機として再認識された山古志住民としてのアイデンティティとは何かを探ることは、今後の復興に向けての精神的な足がかりになるのではないと思われる。

高橋は文学研究の立場から、山間農村部の口碑伝承に関する比較研究を行なっている。『山古志村史』には多くの注目すべき伝承が収録されている。新潟県は口承文芸の宝庫といってよく、基本的な資料の一つに『北越奇談』がある。『山古志村史』と『北越奇談』に語られた俗信や妖怪談について、同じ中山間地域である岩手県遠野市に伝わる物語との比較検討をもとに、山村にまつわる伝承や風土とのかかわりを明らかにしていく試みである。

菊地は宗教学の立場から、山古志における山ノ神信仰について調査を行なっている。上信越は東北地方の日本海側とならんで十二山ノ神信仰のさかんな地域であるが、そのなかにあつて山古志のそれは、他の地域とどのような共通性を持ち、またどのような独自性を示しているのか。山古志における山ノ神信仰の過去と現在をたずねることにより、たえまなく続いてきた信仰を成り立たせているところの祖霊観のありようを探っていく試みである。本年度はその最初の取り組みとして、山古志で信仰されている十二山ノ神のいくつかの側面を、他の地域との比較を通じて理解しようとしてとめた。

3. 活動状況

2007年6月27日（水）に内田雄造教授の引率でオープン・リサーチの参加メンバーが山古志を訪問した。そのおり井上と菊地は、長岡市役所山古志支所長の青木勝氏からのご厚意により山古志村史編集委員会編『山古志村史』全4冊を恵贈していただいた。本年度は、まずこの貴重な文献を基本資料として精読し、このなかから問題点を抽出したうえで、各自が関心をいさぐテーマについて個々に研究を行なうことをめざした。

2008年2月19日から20日まで、井上と高橋と菊地は山古志を訪問した。井上の聞き取り調査を補助するために学生2名（ライフデザイン学部3年次在籍の山崎裕子と若生渚）が同行した。

2月19日（火）は、まず長岡市蓬平の諏訪神社（十二山ノ神を合祀している）を参拝したあと、井上は虫亀地区にある念法寺にて聞き取り調査の打ち合わせをした。念法寺は浄土真宗本願寺派に属し、山古志には寺

は事実上この一箇所しかない。菊地は同地区にある十二山ノ神の石碑を見学し、梶金地区の十二神社を参拝して写真撮影を行なった。さらに榎木地区の十二神社を調査しようと計画していたが、中越地震後に集落が移転したため冬期は道路が閉鎖されており、今回は断念せざるを得なかった。

2月20日（水）は、まず長岡市役所山古志支所に向かい、地域振興課長の齋藤隆氏にご挨拶した。それから大久保地区の桂木（十二山ノ神の御神木で旧山古志村指定天然記念物）を見学し、種苧原中野地区の十二神社を参拝して写真撮影を行なったあと、小松倉地区の松崎ミタさん宅にて十二山ノ神の祭りについてお話をうかがった。午後、井上と高橋は長岡市役所山古志支所にて、念法寺住職の若月敬氏から山古志地区の墓葬の現状についてお話をうかがい、檀家制度を持たない山間寺院における葬送制度のありようについて聞き取り調査を実施した。菊地は山古志に隣接する広神村の権現堂山に向かい、山ノ神信仰と修験とのかかわりを明らかにするための予備調査として周囲の景観を撮影した。

現地での調査にあたり齋藤隆氏よりご高配をいただいた。記して感謝申しあげたい。

本年度は、上記の活動をもとに菊地がその研究成果の一部を、オープン・リサーチ研究報告の第1号に「十二山ノ神の信仰と祖霊観（上）」と題して発表した。

4. 今後の課題

このような経過をふまえて、来年度はさらに基本的な文献資料を収集したうえでこれを読みこみ、聞き取り調査をより広範囲に行ないつつ、個々の研究テーマの深化をはかりたいと考えている。その際に、山古志地域と同じような山間部に暮らす人々の意識、そこでの信仰や伝承についても注意する必要があると思う。今後はさらに調査地をひろげ、たとえば長野県伊那市や岩手県遠野市などとの比較を通じて、他地域との共通性や山古志の独自性を理解していくことが課題となるであろう。それによって山古志地域の活性化につながるような文化活動のあり方を模索していきたい。

生活自立支援班活動報告

生活自立支援研究グループでは、長岡の仮設住宅から山古志へもどられる高齢者や障がい者の方々・もどらないの方々・もどれない方々を対象として、「生活状況、要望、支援の現状、今後へ向けて解決を求められている課題などを明らかにする研究」や、「住み慣れた地域で暮らし続けるためにはどうすればよいのか、住居や生活環境、24時間切れ目のない介護サービス、家にナースコールがあって誰かにつながる、そのような地域での24時間ホームケア体制を推進するための研究」を進めていきたいと考えている。

平成19年度、研究を開始する初年度は、研究フィールドとのパイプをつくり基盤を固めることを狙いとした。研究のフレームをつくるためにも、まずは、地域の保健医療福祉関係の専門職を対象としたヒアリング調査から始めることとした。

<当初予定した平成19年度の研究計画>

1. 研究を焦点づけるための準備

現場視察

専門職員からのヒアリング

保健師などが持っている集約された情報の入手

サロン活動へ参加観察し、ヒアリング調査の可能性をさぐる

2. 山古志ヒアリング調査 / 9月上旬

住宅グループが行う20事例へのヒアリング選定時に下記要件を満たす人を選んでほしい。

65歳以上高齢者自立3人以上、在宅の軽介護者（要支援1・2、要介護1・2）3人以上、在宅の重介護者（要介護3以上）3人以上

要介護認定を受けているだけでなく、何らかのサービスを利用している人

3. 山古志、サロン、送迎、業務委託の可能性を詰め、冬になる前にはじめたい

先々、サロンを宅老所やサテライトサービス拠点にできないか。

送迎サービス、サロンの場がどのような効用をもた

らすかを追跡調査する。

<平成19年度研究活動実績>

2007年6月9日(土)

山古志現地視察 山古志支所訪問

2007年6月18日(月) 13:00 - 17:00

長岡市こぶし園訪問

渡辺・人見・我妻(東洋大学)

見学

サポートセンター三沢(サテライト型小規模多機能
居宅介護)

特別養護老人ホームこぶし園(テレビ電話による24
時間訪問介護・夜間対応型訪問介護)

同行訪問

3事例 ホームヘルパーと同行

2007年7月11日(水) 9:40 - 10:40

山古志支所訪問 研究打合せ

渡辺・水村・神吉(東洋大学)

2007年7月11日(水) 11:00 - 12:00

長岡市社会福祉協議会山古志支所 研究打合せ

渡辺・水村・神吉(東洋大学)

2007年8月5日(日)

仮設住宅訪問、集会所訪問

渡辺(東洋大学)

2007年8月6日(月)・7日(火)

地域サテライトケア全国サミットPart に参加。(長
岡市開催)

特別養護老人ホームを解体し地域で支援する取組
みについて数点報告を聞く

2007年8月6日(月) 14:15

長岡市社会福祉協議会山古志支所訪問

社協支所長・通所介護担当者へのヒアリング調査

渡辺(東洋大学)

2007年8月7日(火) 15:40 - 17:00

サポートセンター信濃、サポートセンター三沢見学

渡辺・神吉(東洋大学)

2007年8月24日(金) 13:30

長岡市社会福祉協議会長岡支所訪問

ヘルパー室担当者・サービス提供責任者・山古志担

当ヘルパーへのヒアリング調査
渡辺（東洋大学）

< 研究成果の概略 >

人口は7月時点で山古志地区に住民票がある方は1,571人。山古志地区で暮らしている方は1,000人ぐらい。山古志支所保健福祉課に保健師が3人。地域包括支援センター、居宅介護支援事業所も兼ねている。地域包括支援センターはH18年4月から長岡市の直営で運営している。

要支援1・2でサービスを利用している方は7人。要介護1～5でサービスを利用している方は40人。障害者手帳を持っている方は約100人。在宅で生活している方は寝たきりに近い状態や、高齢者の中途障害者の方が多い。仮設での生活が良い方向(コミュニケーションをとれるようになった)に向かった障害者(知的障がいのある女性)もいらっしゃるが、仮設から戻ると状況が戻ってしまうかもしれない。精神疾患の予兆が見られる方も多い。心のケアチームが入っているところもあるが、現状として高齢者の方に目が行きがち。もっと障がい者に目を向ける必要がある。

医療に関しては、診療所が陽光台仮設に1箇所、山古志地区内に内科3箇所、歯科1箇所。山古志地区内では、社協がデイサービス(なごみ苑)配食サービスを実施している。

ホームヘルプは、長岡市長倉にある長岡市社協の事業所が実施しており、ホームヘルパー2人が山古志地区を担当している。訪問介護利用者7名。(要支援1が2名、要支援2が1名、要介護1が1名、要介護2が1名、要介護4が1名、要介護5が1名)こぶし園が24時間の訪問介護を開始する計画があるが、まずは携帯電話のアンテナが建たないことには

先に進めない。アンテナがいつ設置されるかは未定。家族介護に関しては、介護は自分達(家族)でやるという地域性がある。地震によって介護が必要な人が掘り起こされた。避難所に来てから介護保険の申請を受けた方がほとんどである。長岡はサービスが豊富だからニーズが出てきた。例えば、地震によってショートステイや各種サービスを利用することになり、介護サービスの考え方が変わってきた。在宅を希望する方が多く、地域の見守りがあるので在宅生活が可能となっているのだろう。入所希望者が少ないため、入所待機者がほとんどいない。ただし、特養待機者はいないわけではない。個人で施設に申し込んでいるので把握していない。

住宅に関しては、既に入居済みの公営住宅は8, 4, 5の17戸。今年16戸建設予定で、10月末に竣工。現在仮設住宅に暮らしている人たちが入居する予定。既に建設されたモデル住宅は2戸。今年10数棟建設予定。現在、陽光台仮設住宅に110世帯が暮らしている。年内に仮設住宅閉鎖予定。

なごみ苑(通所介護)

- ・開設年月日：平成9年だが地震後再指定をとった為、開設は平成18年10月1日
- ・事業実施地域：長岡市(山古志地区：種宇原、虫亀、竹沢、東竹沢、池谷、大久保、榎の木)、小千谷市(東山地区：中山、塩谷、蘭木、小栗山、首沢)
- ・営業日：毎週月曜日から金曜日(土・日、祝日、年末年始以外)
- ・営業時間：午前8時30分から午後5時30分
- ・サービス提供時間：午後9時から午後4時(希望により延長も可)
- ・利用定員：18名

主な職員の配置状況(平成19年8月1日現在)

職種	常勤	(非常勤)	資格	主な職務の内容
管理者	1名			統括
生活相談員	1名		社会福祉主事・社会福祉士	利用者の受け入れ
看護職員	1名	(1名)	看護師・准看護師	利用者の健康管理機能訓練指導
介護職員(運転員)	3名	(3名)	介護福祉士・ヘルパー1級・2級	サービスの提供・車両の管理
調理員	1名	(1名)	調理師	昼食・配食弁当の調理

利用状況

(平成19年8月1日現在：利用者全36名、1日の平均利用者数12.1名)

介護度	人数	主な利用ニーズ
要支援 1	3名	人との交流 (社会的孤独感の解消)
要支援 2	1名	心身機能の維持 (介護予防)
要介護 1	15名	残存機能の維持
要介護 2	9名	機能訓練
要介護 3	5名	日常生活の世話 (入浴、食事、排泄の介助)
要介護 4	1名	介護者の負担軽減
要介護 5	1名	
*身体障害者	1名	

パワーフォーラムの企画に関しては、住民が自分達の力で、自分達の地域を作っていくには、どのような取り組みを行っていくことが必要なのか、アイデアが欲しい。

いつでも立ち寄れる場所、誰でも参加できるサロンというものがあるといい。

誰でも参加できるサロンというものが無い。どうしても地区ごとに、色々なくくりがある。

これから帰ってきて生活を始める災害ボランティアセンターの職員も山古志の復興に関わっていくことになる。帰ってきた時に、やはり仮設の集会所のように集まる場所が必要。集会所をすべての場所に設置すると12箇所になる。それぞれの集会所で、自分達の中から運営者をだし、管理、運営して行ってくれることが望ましい。しかし、現状では、そういう人は出てこない。生き生きサロンを活用させながら地域を広げていきたい。仮設住宅から戻ってきても、ボランティアセンター、社会福祉協議会で協力していきたい。

< 来年度へ向けて >

行政や社会福祉サービス提供担当者等、地域をよく知る専門職員と面識ができ、部分的ではあるが、地域特性を知ることができた。今年行った実情把握は、専門職員を通しての研究であったので、来年度は、是非とも高齢者や障がい者の方から、直接、声を集める研究に取り組みたいと考えている。

東洋大学福祉社会開発研究センター

第1回外部評価委員会議事録

開催日時：平成20年3月13日17時～18時15分

場 所：白山キャンパス3号館2階会議室1

出席者：評価委員 武川正吾、平井邦彦

研究員：古川孝順（センター長）、小林良二、大坪省三、
森田明美、秋元美世、内田雄造、神吉優美、
小瀬博之

事務局：若林益美、鍋谷敏守

RA：後藤広史、相馬大祐

研究支援アルバイト：青柳 聡

以上、計15名

欠席者：藤井敏信（評価委員）

開会挨拶：古川孝順

評価委員・研究員の紹介

：小林良二プロジェクト1リーダー

：内田雄造プロジェクト2リーダー

1. プロジェクト1

「自治体福祉・保健計画と地域における福祉社会の形成」

研究成果報告

資 料

- ・東洋大学福祉社会開発研究センター外部評価委員
- ・東洋大学福祉社会開発研究センター紀要（暫定版）

(1) プロジェクト1-1

（小林良二プロジェクト1リーダー）

プロジェクト1-1では、生活支援研究会、ソーシャルポリシー研究会を今年度合わせて12回行った。また、プロジェクト1合同の研究会を今年度、2回行った。調査研究としては、A市の地域包括支援センターの聞き取り調査を行った。調査結果から、地域における情報ネットワークの構築の課題が明らかとなり、この結果をもとに今後も地域包括支援センターを対象として、地域の生活支援について検討していく。また、自治会、商店会、民生委員などを調査対象として、情報ネットワークの在り方を検討していく。

(2) プロジェクト1-2

（大坪省三プロジェクト1-2リーダー）

プロジェクト1-2においては、帯広市および隣接町村の調査を合計4回行った。「帯広市における生活および経営の困難状況と福祉社会化システム」というテーマのもとに福祉社会システムがどのように形成されるかを多彩な研究員による多角的な視点で検討していく。

(3) プロジェクト1-3

（森田明美プロジェクト1-3リーダー）

プロジェクト1-3では、「急増している母子家庭の自立支援」というテーマをもとに調査研究を行った。この調査結果の発表方法を今後検討していく。また、調査結果から、母子家庭の生活保護受給世帯70世帯を抽出し、現在、ヒアリング調査を行っている。さらに、生活保護を担当するケアワーカーと合同研究会を開催し、調査結果の検討を行っている。

2. プロジェクト2

「中山間地域の振興に関する調査研究 - 中越地震の被災地・長岡市山古志地区の復興計画の事例に即して - 」

研究成果報告

資 料

- ・「中山間地域振興に関する調査研究」

(1) プロジェクト2

（内田雄造プロジェクト2リーダー）

プロジェクト2においては、中山間地域復興を山古志地区の計画に沿って行う実践的研究を行っている。研究グループは、生活支援研究、次世代育成支援研究、健康自立支援研究、住生活・住宅研究、地域産業研究、景観計画研究、地域文化研究の7つであり、それぞれのグループにおいて現状把握、課題について現在、整理している。復興計画の作成を研究目的とし、総合的かつ分野別なものであり、住民参加による作成を重要視していく。また、地域へ研究結果をどのように還元するかを今後検討していく。

3. 講評のまとめ

(1) 武川委員

・A市の地域包括支援センターの調査は、大都市と言ってもA市の特性が考えられる。大都市と言っても非常に多様で、地域社会が荒廃しているところもある一方でA市には地域の目があることが明らかになったという点は新たな知見ではないかと思う。

・プロジェクト2のニュースレターは地域への還元という点で非常に感心した。文科系の大学の社会貢献として、自治体とパートナーシップをとっていくものはあまり見本がないので、非常に有益なものになるのではないか。

・センター名が福祉社会研究ではなく、福祉社会開発研究ということで、「開発」という言葉が入っているため、プロジェクト1もプロジェクト2と同様に社会に貢献していくという視点で活動していくことが必要ではないか。

(2) 平井委員

・プロジェクト2の研究は、観客席でただ見ているような研究では成立せず、フィールドへ入り込み、行政とも連携し合った研究が必要であることを示している。現在、そういった研究が行われ、地域へ大きな貢献をしていると感じる。

・持続可能性ということが今後の課題、テーマとなるであろう。山古志地区の復興を今後どのように考えていくかも含めて、日本の国土の在り方につながるテーマであり、非常に重要であると考えます。

・山古志地区以外の周辺地区にも視野を広げる必要性がある。

(3) 藤井委員 (当日欠席のため書面にてのコメント)

評価委員会を欠席したので、送付された報告書にもとづき、書面にてお伝えしたい。

センターの研究主旨は、福祉社会の形成・開発について、対象をプロジェクト1が「大都市と地方の自治体」、プロジェクト2が「中山間地域」にそれぞれ置いて研究を行うとなっている。高齢社会における地域のあり方はいずれの地域を問わず今後大きな研究課題と

なるのはいうまでもない。

まず、プロジェクト1について、研究計画によると、第一に、福祉・保健計画、介護保険計画、障害者福祉計画、子育て支援計画、地域福祉計画などの策定と運用について検討し、その構造と機能を明らかにすること、第二に、地域におけるマイノリティグループの発生メカニズムを明らかにし、この社会包摂の可能性を検討することとなっている。

今回の報告書では上記の目的に向けて各研究員が論点をまとめている。いずれも個別のテーマについて研究の追究がなされていると推察するのであるが、ひとつ指摘するならば、これらを全体として構造的に関係づける一種の構図のようなものがあれば、大きな研究目的との関連が一層明確になるのではないかと思う。とりあえず初年度ということということで、今後に期待したい。

プロジェクト2について、既に前段階での研究作業が前提になっているので、かなりまとまった展開がなされている。個別の研究分野にも見るべきものがある。あえて注文するとすれば次の点を挙げたい。周知のように中山間地域では、耕地の所有規模、耕作機械の不適合性による生産性の限界、限られた雇用機会がもたらす人口減少、若年層の流出、高齢化等により地域の維持管理さへも困難になる状況が一般的に予想されている。筆者は約10年前まで中山間地域の調査を行っていたが、その時点で議論されていたことと、今日の状況を比較すると、たとえば安達生恒が主張していた「山村安楽死」説から一歩もでていないように思われる。グローバリゼーションが貫徹し、経済成長が一つのイデオロギーとなっている(ダグラス・スミス)状況では、困難な課題であることは承知しているが、この流れにそった可能性(地域資源の市場価値)の追究と、これに対峙するオータナティブな生活価値の選択(たとえばスローライフ)の二つの道をどのように使い分けていくかということになるのだろうか。「山古志でうまく行かなければ全国の中山間地域でも……」(内田研究員)というグループの心意気に期待したい。

以上